



## 平成24年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年8月2日

上場会社名 インターニックス株式会社

上場取引所 東

コード番号 2657 URL <http://www.internix.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 油井 秀行

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼専務執行役員管理本部長 (氏名) 加藤 孝雄

TEL 03-5322-1708

四半期報告書提出予定日 平成23年8月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成24年3月期第1四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第1四半期	5,296	△5.0	120	△18.6	134	△10.8	145	52.6
23年3月期第1四半期	5,573	56.6	148	—	151	—	95	—

(注) 包括利益 24年3月期第1四半期 80百万円 (269.1%) 23年3月期第1四半期 21百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第1四半期	15.01	—
23年3月期第1四半期	9.83	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第1四半期	14,244	9,280	65.1
23年3月期	13,921	9,335	67.1

(参考) 自己資本 24年3月期第1四半期 9,280百万円 23年3月期 9,335百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	14.00	14.00
24年3月期	—	—	—	—	—
24年3月期(予想)	—	8.00	—	8.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

23年3月期期末配当金の内訳 普通配当 12円00銭 記念配当 2円00銭

### 3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	10,800	△4.6	190	△33.1	200	△24.4	180	△57.3	18.59
通期	23,700	11.3	530	21.8	520	20.2	360	△24.6	37.17

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

#### 4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有  
新規 1社 (社名) Internix Thai Limited 、 除外 1社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期1Q	9,903,800 株	23年3月期	9,903,800 株
② 期末自己株式数	24年3月期1Q	218,945 株	23年3月期	218,945 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期1Q	9,684,855 株	23年3月期1Q	9,684,855 株

#### ※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(その他)に関する事項	3
当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) セグメント情報等	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、3月の東日本大震災の発生を受け、サプライチェーン(供給網)の分断による部品不足や電力不足といった供給面での制約が企業の生産活動に大きな影響を及ぼしたほか、マインドの悪化によって設備投資や個人消費に弱い動きがみられました。しかしながら、サプライチェーン(供給網)の復旧が前倒しで進むに伴って企業の景況感が急速に改善するとともに、消費者心理も最悪期を脱しつつあり、景気は一時的な停滞にとどまるとの見方が徐々に広まっております。

当社の企業集団を取り巻く環境は、震災前の水準には及ばないものの、サプライチェーン(供給網)の早期復旧に伴い企業の生産体制の立て直しが急ピッチに進み、企業の生産レベルは力強い回復をみせております。また、原発事故の影響による電力不足の懸念から節電対策製品の需要が高まっているほか、震災により調達難を見越した企業が先行手配や海外製品への代替検討を行うなど、一部では底堅い動きがみられました。更には、スマートフォン(高性能携帯電話)やタブレット型端末(多機能携帯端末)の急速な普及に伴う需要増が期待されております。

このような環境のもと、新たに策定した中期経営計画の初年度に当たる当期を躍進に向けたスタートの年度と位置付け、売上げの基礎となる顧客先製品における採用件数を飛躍的に増大させるべく、全社的な取り組みとして種々の仕掛けを講じ、取扱商品の提案営業(デザイン・イン活動)の積極化に引き続き注力してまいりました。また、前年度に立ち上げた種々のプロジェクトの早期立ち上げにも努力を傾注してまいりました。その結果、注力分野の一つである自動車関連において、一部で他社部品の供給ストップの煽りを受けたものの、車載情報機器向けが堅調に推移したほか、一部のスマートフォン(高性能携帯電話)向けや携帯電話向けにおいて、新規に採用された商品が貢献するなど売上げに寄与いたしました。更には、デジタル一眼レフカメラ向けが商権拡大と相俟って伸長したほか、通信インフラ向け、パソコン向け、ブルーレイ向け及びプロジェクタ向けなども堅調な伸びを示しました。また、得意分野の産業用機器向けにおいてもバラツキはあるものの、概ね順調に推移いたしました。海外ビジネスにおいては、アジア市場での売上げ拡大を図るためタイ王国に販売子会社を設立するなど、拠点の整備・拡充に努めてまいりました。

利益面については、売上げが概ね計画どおり達成し、特に得意分野である産業用機器向けなど利益率の比較的高い商品が貢献したため、売上総利益率が底堅く推移いたしました。また、更なる業務の合理化・効率化も功を奏し、各利益はいずれも計画を大幅に上回ったものの、営業利益及び経常利益は、売上げ減少の影響もあって減益となりました。なお、四半期純利益の段階で、役員退職慰労金の支払いによる繰延税金計上額の見直しに伴う法人税等調整額を計上しております。

この結果、第1四半期連結累計期間の業績は、売上高が52億9千6百万円(前年同期比5.0%減)、営業利益が1億2千万円(前年同期比18.6%減)、経常利益が1億3千4百万円(前年同期比10.8%減)、四半期純利益が1億4千5百万円(前年同期比52.6%増)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

## (IC・半導体)

主力のIC・半導体においては、新規に採用された商品が貢献するなど一部のスマートフォン(高性能携帯電話)向けや携帯電話向けが堅調に推移し、加えて車載情報機器向けも一部で震災の影響を受けたものの売上げに着実に寄与いたしました。また、商権の拡大に伴いデジタル一眼レフカメラ向けが伸びたほか、通信インフラ向け、パソコン向け、ブルーレイ向け及びプロジェクタ向けなども引き続き貢献いたしました。また、得意分野の産業用機器向けも、震災の影響で懸念された設備投資意欲に衰えはみられず、概ね順調に推移いたしました。その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は44億9千5百万円(前年同期比0.5%増)、セグメント利益(営業利益)は1億2千7百万円(前年同期比7.2%減)となりました。

## (電子部品)

電子部品においては、地震関連機器向けリチウム電池が計画を上回ったほか、業務用機器向けコネクタ及び液晶パネル用バックライトモジュールが引き続き堅調に推移いたしました。しかしながら、主力商品の航空機内用エンターテイメント設備向け電源が計画を達成したものの減収となりました。その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は4億7千1百万円(前年同期比9.7%減)、セグメント利益(営業利益)は8百万円(前年同期比53.5%減)となりました。

## (電子機器)

電子機器においては、LED照明向け電源モジュールが新たに立ち上がり、売上げに寄与いたしました。しかしながら、主力のネットワーク機器向け商品が震災の影響等も加わって前年同期

を大きく下回ったほか、産業用機器向けやネットワーク機器向けなど多岐にわたって、前年同期に貢献した新規仕入先の商品も弱含みで推移したため、全体としては低調に推移いたしました。その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は3億3千万円(前年同期比42.7%減)、セグメント損失(営業損失)は1千4百万円(前年同期はセグメント損失(営業損失)1百万円)、となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末の総資産は142億4千4百万円であり、前連結会計年度末に比べ3億2千2百万円増加しました。このうち、流動資産は4億3千2百万円増加の124億2千5百万円となりました。これは主として、現金及び預金、有価証券が減少した一方で、受取手形及び売掛金、商品及び製品や未収入金が増加したことによるものです。また、固定資産は1億9百万円減少の18億1千8百万円となりました。これは主として、固定資産の減価償却や投資有価証券が時価評価により減少したことによるものです。

負債は49億6千4百万円であり、前連結会計年度末に比べ3億7千8百万円増加しました。これは主として、借入債務が減少したものの仕入債務が増加したことによるものです。

純資産は92億8千万円であり、前連結会計年度末に比べ5千5百万円減少しました。これは主として、利益剰余金が増加したもののその他の包括利益累計額が減少したことによるものです。

これにより、自己資本比率は65.1%と、前連結会計年度末に比べ2.0%減少しました。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

今後の見通しについては、東日本大震災で大きなダメージを受けたわが国経済は、震災で寸断されたサプライチェーン(供給網)の急回復により正常化に向かいつつあるとの認識が広まっております。その半面、米国では雇用・住宅を中心に景気後退を示す指標が相次いでいるほか、欧州の財政問題や中国をはじめとする新興国のインフレ懸念など、景気回復のけん引役として期待されてきた世界経済に減速感が強まっており、引き続き予断を許さない状況が続くものと思われまます。

当社の企業集団を取り巻く環境は、スマートフォン(高機能携帯電話)やタブレット型端末(多機能携帯端末)などの市場拡大による新たな需要が見込まれるほか、サプライチェーン(供給網)の立て直しにより生産や輸出に厳しい状況ながらも上向きの動きがみられるなど、需要環境に薄日が差し始めております。しかしながら、電力不足の長期化による企業の生産活動への懸念が未だ払拭されず、更には、海外景気の停滞による輸出の鈍化に加え、円高が長引けば輸出企業の収益が圧迫され業績の足を引っ張りかねないなど、下振れ要因も多数抱えており、依然として厳しい対応を余儀なくされるものと認識しております。

このような認識のもと、震災当時における先行き不透明感は薄らいでいるものの、新たな不安材料が前述のとおり浮上しており、先行きの見通しにつき慎重な見方に変わりがありません。しかしながら、当第1四半期において各利益とも当初予想を上回ったことから、平成23年5月13日付で公表いたしました平成24年3月期の業績予想を、第2四半期(累計)の各利益と通期の当期純利益においてその上回った分を反映する形で上方修正いたします。

ついては、通期の連結業績といたしましては、売上高237億円、営業利益5億3千万円、経常利益5億2千万円、当期純利益3億6千万円を予定しております。

## 2. サマリー情報(その他)に関する事項

当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

新規：Internix Thai Limited

平成23年5月9日付でタイ王国バンコク市に子会社のInternix Thai Limitedを設立いたしました。当第1四半期連結累計期間より、同社を連結の範囲に含めております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,413,255	2,254,582
受取手形及び売掛金	5,141,903	5,396,070
有価証券	199,991	100,000
商品及び製品	2,668,710	3,088,430
仕掛品	5,434	3,340
原材料及び貯蔵品	14,028	13,617
未収入金	1,075,137	1,097,333
その他	605,402	604,126
貸倒引当金	△130,233	△131,733
流動資産合計	11,993,630	12,425,766
固定資産		
有形固定資産	725,840	723,431
無形固定資産		
のれん	97,112	90,637
その他	66,756	58,418
無形固定資産合計	163,868	149,055
投資その他の資産		
その他	1,102,665	1,010,577
貸倒引当金	△64,211	△64,211
投資その他の資産合計	1,038,453	946,365
固定資産合計	1,928,161	1,818,853
資産合計	13,921,791	14,244,620

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,637,262	2,136,077
短期借入金	807,875	801,825
1年内返済予定の長期借入金	600,000	500,000
未払法人税等	17,548	8,185
役員賞与引当金	6,600	8,600
その他	566,043	734,011
流動負債合計	3,635,329	4,188,698
固定負債		
長期借入金	100,000	100,000
退職給付引当金	505,904	503,136
役員退職慰労引当金	178,166	18,849
その他	167,011	153,826
固定負債合計	951,082	775,812
負債合計	4,586,411	4,964,511
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,157,792	1,157,792
資本剰余金	1,340,172	1,340,172
利益剰余金	6,758,639	6,768,393
自己株式	△126,938	△126,938
株主資本合計	9,129,666	9,139,420
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	269,908	216,823
為替換算調整勘定	△64,195	△76,134
その他の包括利益累計額合計	205,713	140,688
純資産合計	9,335,379	9,280,109
負債純資産合計	13,921,791	14,244,620

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
売上高	5,573,623	5,296,607
売上原価	4,563,914	4,265,638
売上総利益	1,009,708	1,030,968
販売費及び一般管理費	861,153	910,042
営業利益	148,555	120,926
営業外収益		
受取利息	2,848	1,505
受取配当金	21,849	20,397
その他	7,031	3,785
営業外収益合計	31,729	25,688
営業外費用		
支払利息	4,382	3,324
支払手数料	3,726	3,898
為替差損	17,514	2,527
その他	3,514	1,991
営業外費用合計	29,138	11,740
経常利益	151,146	134,873
特別利益		
貸倒引当金戻入額	1,421	—
固定資産売却益	1,435	—
特別利益合計	2,857	—
特別損失		
投資有価証券売却損	32	—
投資有価証券評価損	2,913	66
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	15,350	—
特別損失合計	18,296	66
税金等調整前四半期純利益	135,707	134,806
法人税、住民税及び事業税	3,621	4,274
法人税等調整額	36,837	△14,809
法人税等合計	40,459	△10,535
少数株主損益調整前四半期純利益	95,247	145,342
四半期純利益	95,247	145,342

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	95,247	145,342
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△64,608	△53,084
為替換算調整勘定	△8,876	△11,939
その他の包括利益合計	△73,485	△65,024
四半期包括利益	21,762	80,317
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	21,762	80,317
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	IC・半導 体	電子部品	電子機器	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	4,472,216	521,862	576,674	5,570,754	2,869	5,573,623	—	5,573,623
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	1,753	1,753	△1,753	—
計	4,472,216	521,862	576,674	5,570,754	4,623	5,575,377	△1,753	5,573,623
セグメント利益 又は損失(△)	137,391	17,688	△1,498	153,582	△5,026	148,555	—	148,555

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、検査治具の作製を含んでおります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	IC・半導 体	電子部品	電子機器	計			
売上高							
外部顧客への 売上高	4,495,017	471,413	330,176	5,296,607	5,296,607	—	5,296,607
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	4,495,017	471,413	330,176	5,296,607	5,296,607	—	5,296,607
セグメント利益 又は損失(△)	127,537	8,223	△14,834	120,926	120,926	—	120,926

(注) 1 検査治具の作製を行っていたテスミック株式会社が平成23年3月26日付で清算終了したことに伴い、当第1四半期連結累計期間より、「その他」の区分に集計される事業セグメントはありません。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。